

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情5第43号	受理年月日	令和5年11月10日
件名	急増する「不登校生」の学習権を保障する新しい教育の場の設置を求める陳情		
<p><b>【陳情の趣旨】</b></p> <p>近年、目黒でも「不登校生」「別室登校生」が急増しています。学校によっては「別室」を設置したり、安否確認、相談活動、学習支援などに力を注いでいる場合もありますが、増加は進むばかりです。当事者の自己責任や個々の学校の問題に矮小化せず、目黒区の課題として考えるべきです。</p> <p>今、保護者も教員も疲弊し、何より当事者の子どもが苦しんでいます。不安と孤立感を深めています。ことに、中学校では、卒業後の居場所・将来に対する不安が子どもと保護者を苦しめています。</p> <p>残念ながら、エミールが「不登校生」の居場所になりきれていない今、従来のやり方ではない「不登校への手立て」を創設すべき時に来ています。「不登校生」を現行の学校教育に馴染ませるのではない「新しい」「教育の場」を、区をあげて、当事者ととともに構築していく道筋を開いてください。これは、教育委員会はもちろん、目黒区全体が、様々な部署を横断して、目黒の全ての子どもたちの「人権」に向き合う問題です。</p> <p>新しい機器の導入や、新時代の教育手法の開発だけでなく、人間同士のふれあいという教育の原点を保障する手立てを打ってください。</p> <p>まずは、「不登校生」自身から話を聴いてください。子どもたちは、様々な生育歴や、環境の中で義務教育時代を生きています。表現は巧みでなくても、要求や意見は持っています。それを聴き取られない不信感の中でもがいています。</p> <p>保護者の苦悩、生活の様子、人生の送り方、必要な支援を知ってください。仕事を休んだり、辞めたりして、子どもに学びの経験をさせようと民間の活動に頼る保護者もいます。お金をかけても子どもの学びを守ろうと必死です。そのため、多くの経済的負担をしています。それができないで悩んでいる保護者もいます。</p> <p>そして、「不登校生」たちが頼りにしている様々な「居場所」の運営者とも話をしてください。その活動を支援すると同時に、区自身が活動に携わって、従来の学校には馴染めない子どもへの教育を保障する場を開発してください。学校やエミールには登校できない子どもも成長の要求は持っています。その要求に応えてください。</p> <p>他の自治体での取り組みに学ぶべきものがあれば、それを目黒区なりに取り入れる英断もしてください。今のままでは、「不登校」の子どもも、保護者も、学校も、疲弊を募らせるばかりです。</p> <p>「不登校生」を含む、全ての子どもに教育を受ける権利・居場所を保障するのが公立学校の使命です。</p>			

以上の理由により、次の陳情をいたします。

**【陳情事項】**

急増する「不登校生」の学習権を保障するために、区をあげて、当事者ととも  
新しい学習の場の開発に取り組むことを求めます。